

‘南国そだち’を7月下旬に収穫するための 移植時期

表1 移植日と本田移植後5日間の平均温度と枯死および葉枯れ株

移植日 (月/日)	年次	平均温度(°C)		被害程度(無～甚)		過去10カ年 平均気温
		気温	水温	枯死株	葉枯れ	
3/20	2006年	11.4	15.2	無	微	10.5
	2007年	12.1	16.9	無	無	
3/27	2006年	8.4	15.5	無	多	12.0
	2007年	14.9	17.1	無	無	
4/5	2006年	14.0	17.7	無	無	14.9
	2007年	12.4	16.5	無	微	

注1) 気温はAMeDAS後免(南国市)観測値。水温は「おんどとり(TR-72)」で測定。いずれも日最高最低平均値。

2) 枯死株、葉枯れ株は移植10日後に120株(2反復)調査。

表2 移植時期と出穂期、成熟期、玄米収量および品質評価(2006、2007)

移植日 (月/日)	苗の種類	移植時の葉齢	出穂期 (月/日)	同差 (日)	成熟期 (月/日)	同差 (日)	玄米重 (kg/10a)	品質評価 (1～9)
3/20	稚苗	2.0	6/17	-5	7/20	-4	438	5
3/27	稚苗	2.1	6/20	-2	7/23	-1	411	4
	ポット苗	3.9	6/16	-6	7/21	-3	437	4
4/5	稚苗	2.2	6/22	(0)	7/24	(0)	429	5
	ポット苗	4.5	6/18	-4	7/22	-2	376	4
4/19	稚苗	2.4	6/27	+5	7/30	+6	405	7

注) 2カ年平均値。品質評価の1～4は1等、5～6は2等、7～8は3等、9は規格外(高知農政事務所鑑定)。2007年は登熟初中期が少照のため、2006年の評価を示した。

‘南国そだち’は、農業技術センターで育成した極早生良食味米品種で、県内産地では‘とさびか’、‘ナツヒカリ’と置き換わる品種として期待されています。これら2品種にかわって‘コシヒカリ’へとリレー出荷を行うためには、‘南国そだち’を7月20日から7月31日までの間に収穫する必要があります。そこで、移植条件(時期、苗の種類)と収穫時期との関係を検討しました。

その結果、早植えの限界温度は平均気温(日最高気温と日最低気温の平均値)で12℃

付近と考えられました(表1)。平均気温の過去10カ年平均値からみれば、移植の早限は3月27日頃となります(表1)。苗の種類は稚苗、またはポット苗(例；みのる式)でよく、ポット苗では稚苗に比べ、成熟期が2日早くなることもわかりました(表2)。一方、7月31日までに収穫するための限界移植日は、4月19日頃であることもわかりました。

今後は、3月移植に対応した高品質安定栽培法について検討を進めていきます。

(水田作物担当 坂田雅正 088-863-4916)